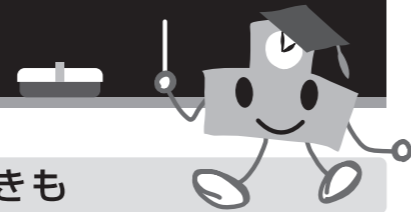


小学校の事例 東区 札苗小学校

さとらんどで稲作体験。 自然に触れ、フードリサイクルを学ぶ。

さとらんどで田植えと稲刈りを体験。収穫後にはもちつきを行っている。楽しみながら稲作をより理解し、食物や自然の大切さを実感するように。体験を通じて、給食の残量減少につながることを期待。



内容 田植えと稲刈りを体験 収穫後はもちつきも

5年生が、6月と9月の年2回、さとらんどで稲作体験を実施。自然に触れることと、食物のありがたさを知るとともに、フードリサイクルへの意識を高めることを目指して取り組んでいる。

活動は、さとらんどから稲作体験の案内が来たこと、当時、体験的な学習が少なかったことから平成17年度に開始。3年目(平成19年)までは、6年生が総合的な学習の時間に行っていた。その後、総合的な学習の時間のカリキュラムがかたちづくられたことから、5年生社会科の稲作の学習内容と関連させたことから、平成20年度から5年生が社会科の中で行うことになった。

6月は田植え、9月は稲刈りを体験。以前は長靴をはいていたが、脱げやすいということで現在はハイソックスをはいて行っている。稲刈りの時には鎌を使うので軍手をはめる。くつ下や軍手、着替えは各自で持参している。さとらんどまでは路線バスを利用して往復している。

自分たちで刈った稲は、後日、教員がさとらんどへ行き、受け取っている。交通費などの費用は、各自で負担している。家庭科の時間に、もちつきをしたり、おはぎづくりをしたりしている。保護者と一緒に調理し、できた料理をみんな食べている。さとらんどで栽培した稲の収穫量では足りないため、お米を買い足すようにしている。



田植えのようす①



田植えのようす②

今後 体験から得た知識を日常の生活へ還元

児童は稲作体験を楽しみながら取り組んでいる。体験することで稲作をより具体的に理解し、改めて農家の苦労を実感している。また、本校は給食の米飯の残量が多い。体験をとおして得たこれらの知識が、残量の減少につながればと考えている。

小学校では、環境問題を知ること、それに関わる体験を積み重ねることが大切である。中学・高校では、それをもとに理論的に学んでいってほしいと考えている。そのためにも、このような体験活動を大切にしていきたい。

環境学習の要素は多くの教科の中に散りばめられている。例えば、社会科には稲作のほか、ごみについての学習もある。理科ではエネルギーや植物の観察、家庭科では食物の学習をフードリサイクルに結びつけることができる。このような要素を整理し、体系化していけば、一つひとつの学習が実のあるものになっていく。

現在、本校では食育の体系化を進めている。本校の食育の全体構造を明らかにし、価値ある実践を積み重ねていきたい。



稲刈りのようす



調理したおはぎを食べるようす

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

回収された食品トレイを貯金箱と交換してくれる企業があるそうです。食品トレイは多くの家庭から出るものなので、学校で回収を行うことで、効率よく回収できると思います。

しかし、この食品トレイをはじめ、リソングブルやペットボトルキャップなど収集するようなものは、集めたあとの整理に困るといこともよく耳にします。楽に集められるようなものや、業者で整理してくれるのであれば、比較的簡単に取組んでいけると思います。